

味の**本**

手づくりファームは大賑わい

『新農業ビジネス ただいま大奮闘』

金丸弘美

NAP 定価(本体1500円+税)



どこへ行っても、地方の活性化が叫ばれているが、村起こしのテーマがない、若者が定着しない、特産品がない、人が集まらない、といった悲観論がほとんど。そのなかで、8000人の小さな村だが、年間50万人もの人を集め、25億円を売り上げ

ているすぐれた農業ビジネスの村がある。180人の社員は平均年齢27・5歳と若い。三重県阿山町の「伊賀の里・モクモク手づくりファーム」……本書の主人公である。

出発点は「養豚をどうしようか」というところからで、決して、観光地にふさわしいような見事な景観や、伝統的な祭りや豪華な施設、歴史的建造物、名物の旨い物など、まったくくなくもなかった」という。

あったのは、養豚と雑木林、米の農業であった。そんななかで、特産品を作り、人を集め、全国に会員を2万8000人も作ってしまった。

「モクモク手づくりファーム」は、養豚農家を中心に出資し、1988年に創立した農事組合法人である。伊賀の山の中に、農業の生産から、肉、ソーセージ、ハムを始め農産物の加工販売、レストラン、パン工房、地ビール工場、通販、体験工房までつくってしまった、というからすい。

著者は「最近問題になったBSE(狂牛病)も雪印食品や全農の偽装事件も、中国からの輸入農産物に使われた大量の農薬や、食品会社の違法添加物使用問題も、消費者と生産

者が乖離して、食べ物が大消費された結果、食べ物工業規格製品と同じに扱われる金儲けの手段に墜ちたからにはかならない。お互いの顔がまったく見えなくなっているから起こったことで、当然の帰結といってもおかしくない。」

「農業が危ない」とか「農業に未来がない」といわれるが、著者は全国200か所をめぐる、この「モクモク手づくりファーム」をはじめ、新しい農業にめざめた人たちに会って、それは違うということがわかった。

「国の推進してきた近代農業や、グローバル化してしまった産地指定の大量生産、大量販売の農産物や食品、農協が危ないのであって、決して農業が危ないのではないのである」

本書を通読していると、すぐにも「モクモク手づくりファーム」に飛んでいきたいくなる。

★伊賀の里

モクモク手づくりファーム

三重県阿山町西湯舟3609

☎0595(43)10909

http://www.mokumoku.com/